

# 宝田町“貯筋通帳マップ”

阿南健康第2番完歩 宝田公民館の道

宝田公民館  
宝田町久保田97-1  
Tel (0884) 22-0234



阿南医療センター：28-7777  
阿南健康づくりセンター  
(保健センター)：22-1590  
玉真病院：23-0551

展望台  
鍛冶ヶ峰

# 宝田町“貯筋通帳マップ”

## 阿南健康第2番完歩 宝田公民館の道

①宝田公民館	500m	②隆禅寺	800m	③たから橋	興隆寺境内
WC		WC			
④井関ため池	1.2km	井関ため池周回	1.6km	⑤一の堰水門	
		※⑦は削除			
⑥古烏神社	400m		1.0km	⑧今市八幡神社	
		⑨清水信号交差点	600m	⑩桜街道折返し点	⑪密蔵院
		※⑫は削除			700m
				宝田公民館	
				WC	
			1.6km		

●隆禅寺 昔、大寺とも呼ばれ、8町(1町は109m)四方の境内に七堂伽藍が立ち並ぶ広大な寺だった。古瓦などの出土品から、白鳳～天平時代(650～750年ごろ)の創建と考えられる。天智天皇が皇太子時代に、四国に巡行し、隆禅寺と大野寺を建立したという説があるが、天武天皇説もあり、不明である。戦国時代の戦火や、再三の火災により寺宝も記録も残っていない。また、1884(明治18)年には本堂から出火した。現在は方丈に本尊阿弥陀如来を安置してある。

●鍛冶ヶ峰 鍛冶ヶ峰は標高227.2mの井関山の山頂である。昔、ここに不思議な名刀を鍛える鍛冶が住んでいたことから鍛冶ヶ峰と称されるようになったという。近くの人たちは、別名「行者はん」とも呼んでいる。山麓から急な山道を登ること約40分、頂上からの眺めはすばらしく、南には津峰、東を望めば太平洋および紀の路の遠山、北には那賀川の流れなど飽くなき眺望が広がっている。

●井関石灰洞窟跡 石灰石は農業用の肥料であったが、建築技術の向上とともに、商品として流通するようになった。江戸時代には徳島藩の産業のすすめ、藩の許可を得た人たちが採掘加工販売をした。見能林村菅島・山口村北山・長生村大原などで採掘していた形跡がある。井関石灰洞は1915(大正4)年井関村で、岩田品太郎が石灰石を採掘していたときに発見した。保存をする動きかけがあったが、すぐ石灰石の採掘が再開し、石灰洞は壊された。現在は埋まってしまい、洞窟は残っていない。

●一の堰 桑野川には農業用の取水堰が16カ所もあり、最も下流にある「一の堰」では、2月初旬から9月下旬まで水をせき止めている。そのため、他の川と異なった自然環境が作られている。現在の堰は富岡橋のすぐ横に造られた可動堰であるが、旧一の堰は新富岡橋よりさらに上流に位置し、長さ20間(約36m)、幅10間(約18m)、高さ4尺(1.2m)の大きさの石造りの堰であった。富岡城番初代賀島政慶が慶長年間(1596～1614年)に構築し、政慶の子、政重が幕府の一國一城の命により富岡城を取り崩した際、城の石垣の巨石を再利用し、寛永年間(1624～1643年)に完成した。

●古烏(こがらす)神社 現在は宝田町郡の正八幡神社の飛地境内社となっている。この神社は、702(大宝2)年に建立され、延喜式神名帳に登録された式内古社である。ご祭神は建比売命(たけひめのみこと)でこの神は大国主神(おおくにぬしかみ)の娘、建姫命(たけひめのみこと)、あるいは豊葦原姫命(とよあしたけひめのみこと)とされ、どちらも女神である。川原の産土神(うぶすなかみ)として崇められ、安産の神として靈験がある。なお、社名は建比売神社と称していたが、木がうつそうと茂り鳥が多く生息するようになったので、いつしか古烏神社と呼ばれるようになった。